

## コラム①：次期収穫に向けたマンゴー炭疽病の防除対策

本病の病原菌は、1月下旬には花芽、花序および葉などに潜在感染していることが知られています。翌年の収穫果実の被害を軽減するため、12月から下記の防除対策を徹底しましょう。

### 1 発生生態および被害

- (1) 新芽、葉、果実などに発生する(図1～3)。
- (2) 密植やハウス内の換気が悪い場合などの高湿度条件下で発生しやすい。
- (3) 収穫時に症状がみられなくても、追熟とともに発症する場合がある。
- (4) 花芽の膨らむ頃から潜在感染する。
- (5) 被害残さは翌年の伝染源になる。



図1 新芽の症状



図2 葉の症状



図3 果実の症状

### 2 防除上注意すべき事項

- (1) ハウス内の通風をよくする。
- (2) 剪定残渣は、ビニール袋に入れるなどして施設外に持ち出し処分する。
- (3) 12月から定期的な薬剤防除を行う(表1)。

表1 薬剤防除スケジュール(沖縄本島における事例)

生育状況	出蕾期		開花期		結実期	果実肥大期		
散布月	12月	1月	2月	3月上旬	3月下旬	4月	5月	6月
薬剤	Mn水和剤	Mn水和剤	Ky水和剤	Ky水和剤	Krフロアブル	Krフロアブル	Krフロアブル	Azフロアブル

\*Mn: マンゼブ, Ky: キャプタン, Kr: クレソキシムメチル, Az: アゾキシストロビン